

**構造エネルギー工学学位プログラム（構エネ）における
社会人早期修了プログラム履修のための案内**

【1】 社会人早期修了プログラム履修審査

社会人特別選抜によって後期課程に合格し、早期修了プログラムの履修を希望する者は、以下の書類を提出することによって、社会人早期修了プログラム履修審査を受けることができます。書類提出時期と提出先については、システム情報工学研究群の「早期修了プログラム履修審査に係る日程表」（システム情報工学研究群HPに掲載）を見て下さい。

また、書類提出前に、指導希望教員と提出書類の内容について相談して下さい。なお、このプログラム履修審査は、書類審査を原則としますが、場合によっては面接審査を行います。

社会人早期修了プログラム履修審査のために準備する書類

次のように、Ⅰ. 概要、Ⅱ. 業績リストと付属資料、Ⅲ. 達成度自己点検シート、Ⅳ. 博士論文の構想の4種類の書類を提出して下さい。

Ⅰ. 概要

次の項目について、簡潔にまとめて下さい（1 ページ以内）。

- (1) 氏名
- (2) 所属
- (3) 連絡先
(郵便物送付先、電話番号(携帯電話も)、FAX 番号、e-mail address を必ず記載)
- (4) 志望分野・志望教員
- (5) 修士課程時の専門分野（修士課程を修了していない者は学士課程の専門分野）
- (6) 業務内容と志望分野との関わり
- (7) その他参考となる事項（業績・資格など）

Ⅱ. 業績リスト

博士の学位論文の基となる「学術的蓄積」として、次の(1)と(2)が必要です。

- (1) 査読付き学術論文2編以上
- (2) 口頭発表資料2編以上

これらの業績リストを準備するとともに、付属資料として、論文別刷（コピー可）および口頭発表資料コピーを添付して下さい。

なお、(1)については、採録可とされていれば、未刊行のものでもかまいません。その場合は、採録通知と原稿を合せて添付資料として下さい。

その他に、依頼原稿、講演、各種講師、マスメディアへの出演や掲載、発明・特許、計画・

設計などへの応募，これまでに実施してきた研究プロジェクトなどを記載した「業績リスト（構エネ）」を『『業績リスト（構エネ）』記載例』を参考として作成下さい（ページ数に制限はありません）。

Ⅲ. 達成度自己点検シート

別紙記載例（pdf ファイル『『達成度自己点検シート（構エネ）』記載例』）を参照しながら，以下に示す達成度評価項目の①～⑧の各々について，自己評価として A（博士の学位にふさわしいレベル），B（修士の学位レベル），あるいは C（学士の学位レベル）のいずれかを入学時審査時の欄に，その根拠とともに，「達成度自己点検シート（構エネ）」に記述して下さい。

原則として，①，③，⑤，⑦については A（博士の学位にふさわしいレベル）であることが主張できなければなりません。その他の項目②，④，⑥，⑧については B（修士の学位レベル）以上を主張して下さい。②，④，⑥，⑧について A（博士の学位にふさわしいレベル）であることを主張しても差し支えありません。

① 知の創成力（未来の社会に貢献し得る新たな知を創成する能力）

業績リストで挙げた論文等の内容に従って，新たな知の創成といえる研究成果等があるか，それらが人類社会の未来に資する知を創成することが期待できるか，端的に主張して下さい。論文等の特定部分を引用しながら，具体的かつ客観的に述べて下さい。

② マネジメント能力（俯瞰的な視野から課題を発見し解決のための方策を計画し実行する能力）

重要な課題に対して長期的な計画を立て的確に実行することができるか，業績リストに挙げた論文等に対して，どのように問題設定を行い，問題を解決していったか，論文等の特定部分を引用しながら，具体的かつ客観的に述べて下さい。また，専門分野以外においても課題を発見し，俯瞰的な視野から解決する能力はあるか，これまでの経験と学習がどのような形で広い視野を形成するようになったか簡潔に記して下さい。

③ コミュニケーション能力（学術的成果の本質を積極的かつわかりやすく伝える能力）

これまで行ったプレゼンテーションについて，日時・場所・発表内容を簡単に要約して記して下さい。国際・国内会議などで行ったプレゼンテーションについては必ず含めて下さい。その中で，異分野の研究者や研究者以外の人に対して，研究内容や専門知識の本質をわかりやすく論理的に説明することができるか，専門分野の研究者等に自分の研究成果を積極的に伝えるとともに，質問に的確に答えることができるか，述べてください。必要に応じて，口頭発表資料等を引用して下さい。

④ リーダーシップ力（リーダーシップを発揮して目的を達成する能力）

魅力的かつ説得力のある目標を設定することができるか 目標を実現するための体制を構築し，リーダーとして目的を達成する能力があるか，必要に応じて論文等の特定

部分を引用しながら、具体的かつ客観的に述べて下さい。論文を引用せず、実務経験について直接述べることも可能ですが、その際は、業績リストにこれに該当する実務業績を記載して下さい。

⑤ 国際性（国際的に活動し国際社会に貢献する高い意識と意欲）

国際社会への貢献や国際的な活動に対する高い意識と意欲があるか 国際的な情報収集や行動に十分な語学力を有するか、国際的な場における経験がどの程度あるか、述べて下さい。必要に応じて業績リストを引用して下さい。

⑥ 研究力（構造エネルギー工学分野の先端的な問題を抽出して解決法を提案し実行できる能力）

業績リストについて、論文・発表数、特許、実務業績、受賞、特記事項などを要約して下さい。構造エネルギー工学分野における先端的な研究課題を自立して適切に設定できるか、先端的な研究を行うための基本的・応用的な技術はあるか、先端的な研究を自立して遂行して成果を上げることができるか、述べて下さい。

⑦ 専門知識（構造エネルギー工学分野における基本的学力と先端的かつ高度な専門知識を運用する能力）

システム情報工学分野の基礎的な専門知識をもつか 構造エネルギー工学分野における先端的かつ高度な専門知識を修得し、その運用能力を備えているか、修士課程のときの学習内容を中心に簡潔に記して下さい。修士課程を修了していない場合は、修士相当の関連分野基礎能力を有していることを客観的かつ具体的に述べて下さい。

⑧ 倫理観（工学分野の高度専門職業人にふさわしい倫理観と倫理的知識）

研究者倫理および技術者倫理について理解し遵守しているか、必要に応じて業績リストを引用して述べてください。また、研究の際に必要な研究者倫理および技術者倫理に関する手続きについて十分に理解しているか、INFOSS の受講状況を含めて要約してください。

IV. 博士論文の構想

1. 「学術的蓄積」として挙げた論文等の内容に基づいて、学位論文執筆の構想 について簡潔に（2～4 ページ程度）記述してください。
2. 上記の学位論文の構想に基づいて学位論文を執筆するにあたり、課題として残されている事があれば記述してください。
3. 関連分野についての簡単なサーベイも記述してください。
4. 上記の執筆にあたっては、研究の背景や問題意識、具体的なテーマと成果について、「学術的蓄積」として挙げた論文等の内容や関連分野との関連も含めて、簡潔に記述するよ

う努めてください。

社会人早期修了プログラム履修審査の内容について

「達成度自己点検シート（構エネ）」、「業績リスト（構エネ）」などの資料を基に、達成度評価項目別に3段階評価を行います。

A：博士の学位にふさわしいレベル

B：修士の学位レベル

C：学士の学位のレベル

達成度評価項目のうち、①、③、⑤、⑦についてはA、②、④、⑥、⑧についてはB以上の評価をもって履修可と判定します。

【2】 履修が承認された場合の学修について

- ・ 構造エネルギー工学後期特別研究（6単位）
- ・ 構造エネルギー工学後期特別演習（2単位）
- ・ 講義科目 2単位

の合計 10 単位の取得が必要です。講義科目について、どの科目を受講するかについては、本プログラム受講が承認された後、指導教員と相談して決めてください。これらを履修することによって、予備審査時には、「汎用コンピテンス」及び「学位Pコンピテンス」すべての項目について予備審査に入れるレベルに到達している必要があります。

中間審査について

学修を円滑に進めるため、本プログラム受講開始から3~4ヶ月経過した時点で、学修の進捗について中間審査を行います。中間審査時には、履修審査時に提出した「達成度自己点検シート（構エネ）」の中間審査時の欄に自己評価レベルを記入提出し、担当教員の指導を受けて下さい。

予備審査について

予備審査の申請にあたって、中間審査時に提出した「達成度自己点検シート（構エネ）」の予備審査時の欄に自己評価レベルを記入提出し、「汎用コンピテンス」及び「学位Pコンピテンス」すべての項目について、入学後何を学び、博士予備審査のレベルに達したかを述べて下さい。

なお、履修すべき科目数と履修内容については、各学生により異なる場合がありますが、いずれも達成度評価に基づき判定しますので、担当教員の指示に従って下さい。

予備審査時には、次の2点を審査します。

(1) 「汎用コンピテンス」及び「学位Pコンピテンス」すべての項目について A（博士審査に入れるレベル）以上であることの確認

(2) 学位論文の予備審査

予備審査に合格した者は、学位論文に着手することを認められます。